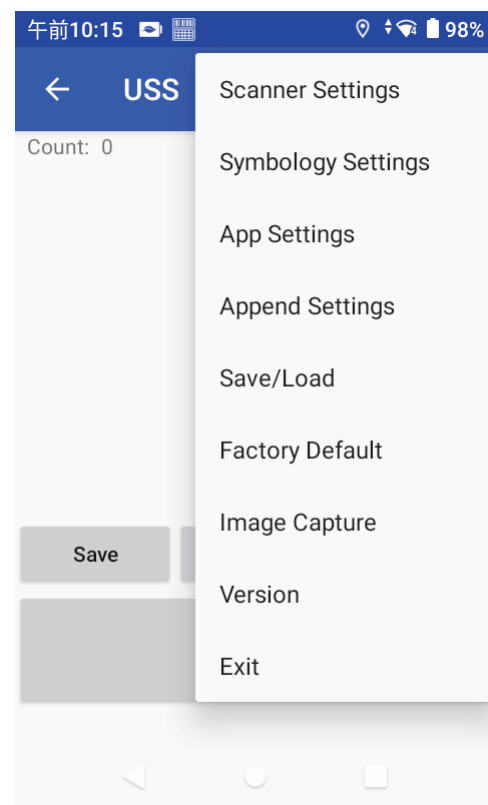
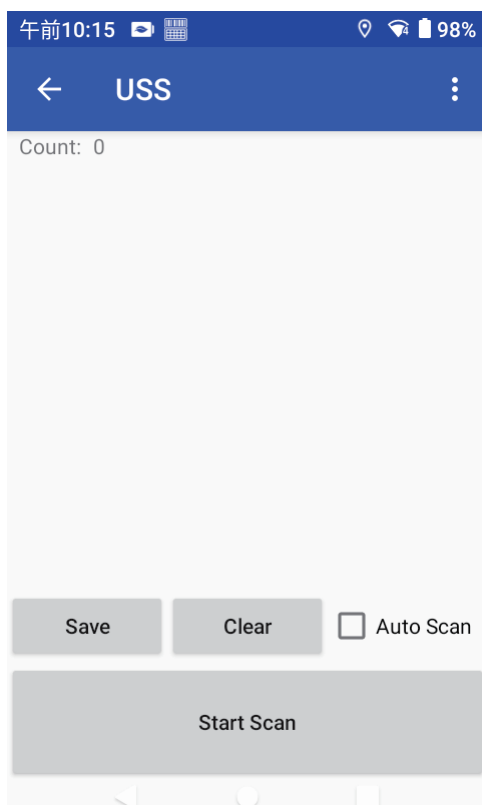


Unitech Scan Service (USS)

ユーザーマニュアル



改訂履歴

リリース	リビジョン	日付	改訂履歴
1	A	2021-04-13	● 初期リリース
2	A	2021-11-16	● 各設定項目に詳細を追加

はじめに

本マニュアルについて

ユニテック製品をご購入いただきありがとうございます。

本書は、Unitch Scan Service (USS) アプリの GUI (グラフィカル・ユーザー・インターフェース) や設定内容を理解していただくためのものです。本マニュアルを使用して、デバイス上の統合されたスキャナーの操作と設定を行ってください。

目次

第 1 章 概要	8
1.1 USS について.....	8
1.2 バーコードデータの出力方法について	8
1.3 USS を開始する	9
1.4 USS のメイン画面	10
1.4.1 バーコードの読取り.....	10
1.4.2 バーコード読み取り結果の取得.....	10
1.4.3 自動スキャン.....	11
1.4.4 画像キャプチャ.....	11
1.4.5 読み取り結果履歴の保存と消去.....	11
第 2 章 Scanner Settings	12
2.1 Trigger Modes.....	12
2.2 Picklist Mode.....	12
2.3 Mode Configuration	13
2.4 UpperLeftWindow	13
2.5 UpperLeftWindowY	13
2.6 LowerRightWindowX.....	13
2.7 LowerRightWindowY.....	13
2.8 Multi Decode Mode	13
2.9 Multi Decode Count.....	14
2.10 Decode Session Timeout.....	14
2.11 Transmit Code ID Character.....	14
2.12 Transmit No Read Message.....	14
2.13 DPM Mode	14
2.14 Illumination Power Level.....	14
第 3 章 Symbology Settings	15
3.1 UPC-A.....	16
3.1.1 UPC-A Check Digit.....	16
3.1.2 UPC-A Addenda 2.....	16
3.1.3 UPC-A Addenda 5.....	16
3.1.4 UPC-A Addenda Required.....	16
3.1.5 UPC-A Addenda Separator	16
3.1.6 UPC-A Preamble	16
3.1.7 Convert UPC-A to EAN-13	16
3.2 UPC-E.....	17
3.2.1 UPC-E1	17
3.2.2 UPC-E Check Digit.....	17
3.2.3 Convert UPC-E to UPC-A.....	17
3.2.4 UPC-E Addenda 2	17
3.2.5 UPC-E Addenda 5	17
3.2.6 UPC-E Addenda Required	17

3.2.7	UPC-E Addenda Separator.....	17
3.2.8	UPC-E Preamble.....	18
3.3	EAN-8.....	18
3.3.1	EAN-8 Check Digit.....	18
3.3.2	EAN-8 Addenda 2.....	18
3.3.3	EAN-8 Addenda 5.....	18
3.3.4	EAN-8 Addenda Required.....	18
3.3.5	EAN-8 Addenda Separator.....	18
3.4	EAN-13.....	18
3.4.1	EAN-13 Check Digit.....	19
3.4.2	EAN-13 Addenda 2.....	19
3.4.3	EAN-13 Addenda 5.....	19
3.4.4	EAN-13 Addenda Required.....	19
3.4.5	EAN-13 Addenda Separator.....	19
3.5	Code 128.....	19
3.5.1	Code 128 Min Length.....	19
3.5.2	Code 128 Max Length.....	19
3.6	GS1- 128.....	20
3.7	ISBT 128.....	20
3.8	Code 39.....	20
3.8.1	Convert 39 to Code 32.....	20
3.8.2	Code 39 Min Length.....	20
3.8.3	Code 39 Max Length.....	20
3.8.4	Code 39 Check Digit Verification.....	20
3.8.5	Code 39 Full ASCII Conversion.....	21
3.9	Trioptic Code 39.....	21
3.10	Code 93.....	21
3.10.1	Code 93 Min Length.....	21
3.10.2	Code 93 Max Length.....	21
3.11	Code 11.....	21
3.11.1	Code 11 Min Length.....	21
3.11.2	Code 11 Max Length.....	21
3.11.3	Code 11 Check Digit Verification.....	22
3.12	Interleaved 2 of 5.....	22
3.12.1	Interleaved 2 of 5 Min Length.....	22
3.12.2	Interleaved 2 of 5 Max Length.....	22
3.12.3	Interleaved 2 of 5 Check Digit Verification.....	22
3.13	Codabar.....	22
3.13.1	Codabar Min Length.....	23
3.13.2	Codabar Max Length.....	23
3.13.3	NOTIS Editing.....	23
3.14	MSI.....	23
3.14.1	MSI Min Length.....	23

3.14.2	MSI Max Length.....	23
3.14.3	MSI Check Digit Algorithm.....	23
3.15	Matrix 2 of 5.....	24
3.15.1	Matrix 2 of 5 Min Length.....	24
3.15.2	Matrix 2 of 5 Max Length.....	24
3.16	GS1DataBar.....	24
3.17	GS1DataBar Limited.....	24
3.18	GS1DataBar Expanded.....	24
3.19	US Postnet.....	24
3.20	US Planet.....	25
3.21	Japan Postal.....	25
3.22	Australian Postal.....	25
3.23	Netherlands KIX Code.....	25
3.24	USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail.....	25
3.25	UPU FICS Postal.....	25
3.26	PDF417.....	25
3.27	MicroPDF417.....	26
3.28	Data Matrix.....	26
3.28.1	Data Matrix Symbol Size.....	26
3.29	Maxicode.....	26
3.30	QR Code.....	26
3.31	Aztec.....	26
3.32	Han Xin.....	26
3.33	Dot Code.....	26
3.34	Composite CC-C.....	27
3.35	Composite TLC-39.....	27
3.36	UCC Coupon Extended Code.....	27
3.37	OCR.....	27
3.37.1	OCR Mode.....	27
3.37.2	OCR Template.....	27
3.37.3	OCR User Template.....	28
第 4 章	App Settings.....	29
4.1	Scan to key.....	29
4.2	Interchar Delay Time(ms).....	29
4.3	Output method.....	29
4.4	Auto Scan.....	29
4.5	Auto Scan Interval Time(sec).....	30
4.6	Screen Button.....	30
4.7	Sound.....	30
4.8	Frequency.....	30
4.9	Duration Time.....	30
4.10	Vibration.....	30

4.11	Start App in boot.....	30
4.12	Intent Action.....	30
4.13	Intent Extra.....	30
第5章	Append Settings.....	31
5.1	Preamble.....	31
5.2	Postamble.....	31
5.3	Terminator.....	32
5.4	Encoding.....	32
5.5	GS1-128 Field Separator.....	32
5.6	Apply GS to all Symbologies.....	32
5.7	GS1-128 Application Identifier.....	32
5.8	GS1-128 Char Before AI.....	32
5.9	GS1-128 Character After AI.....	33
5.10	Apply AI to All Symbologies.....	33
5.11	Apply AI to Data Matrix Also.....	33
5.12	HIBC LIC.....	33
5.13	HIBC LIC Group Separator.....	33
5.14	HIBC LIC Record Separator.....	34
5.15	HIBC LIC End Of Transmission.....	34
5.16	HIBC LIC Header/Trailer.....	34
第6章	Save/Load.....	35
6.1	Save Settings.....	35
6.2	Load Settings.....	35
第7章	Factory Default.....	36
7.1	Factory Default.....	36
第8章	Image Capture.....	37
8.1	Image Capture.....	37
第9章	Version.....	38
9.1	Version.....	38
第10章	Exit.....	39
10.1	Hide.....	39
10.2	Exit.....	39
第11章	データ編集.....	40
11.1	データ編集とは.....	40
11.2	データ編集機能を使用するには.....	40
11.3	rule.txt.....	40
11.4	サンプル.....	43
第12章	付録.....	44
付録A	AIMコードIDリスト.....	44
付録B	シンボルコードIDリスト.....	47
付録C	USSの動作が不安定なとき.....	49

第1章 概要

1.1 USS について

USS (Unitech Scan Service) は、端末に内蔵されたバーコードスキャナーを制御するための GUI を提供するスタンドアロンの Android アプリケーションです。通常、USS はバックグラウンドでサービスとして実行され、スキャンイベントのトリガーやスキャナから取得したデータの受信を処理します。USS の主な機能は以下の通りです。

- ユーザーが簡単にスキャナーを設定できる GUI を提供します。
- スキャンイベントのトリガーとスキャナからの収集データの受信を処理します。
- キーイベントのように、取得したデータをキーボードから送信する Scan to key 機能を提供します。
- Android インテントからスキャナを制御するための Unitech Scan Interface (USI) API を提供します。

1.2 バーコードデータの出力方法について

USS が動作しているデバイスでは、バーコードスキャナが読み取ったバーコードのデータを「キーボード」または「インテント」として出力します。データの出力先は 29 ページの「4.1 Scan to key」の状態によって変化します。

■ キーボード出力

Scan to key が Enable (初期値) のとき、USS は、バーコードスキャナが読み取ったバーコードのデータをキーボードバッファに送信します。

アプリケーションは、USS からのデータを「キー入力」または「コピー & 貼り付け」で受け取れます。

データを受信するために、ユーザーはデータを受け取りたいアプリケーションをアクティブ (最前面) にしておき、入力したい場所にカーソルを合わせてバーコードをスキャンするだけです。データを受信するために、アプリケーション側に特別なプログラミングは必要ありません。

キーボード出力されるデータは、デバイスの画面キーボードの入力状態の影響を受けることに注意が必要です。文字が全角で入力されたり、設定しているにも関わらず自動実行がされない場合は、デバイスのバックボタンをタップして、表示されている画面キーボードを非表示にしてみてください。

■ インテント出力

Scan to key が Disable のとき、USS は、バーコードスキャナが読み取ったバーコードのデータを Android インテントとして送信します。

USS が出力したインテントを受け取るためには、インテントを受け取るようにプログラミングされた専用のアプリケーションが必要です。プログラミングされたアプリケーション以外では、データの受信はできず、なにも表示されません。

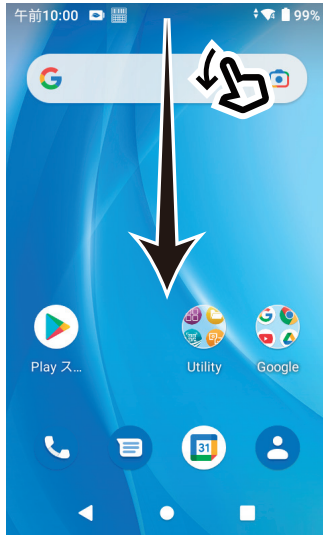
USS からのインテントを受け取るためのアプリケーションの作成には、別冊の Android プログラミングマニュアルをご覧ください。

1.3 USS を開始する

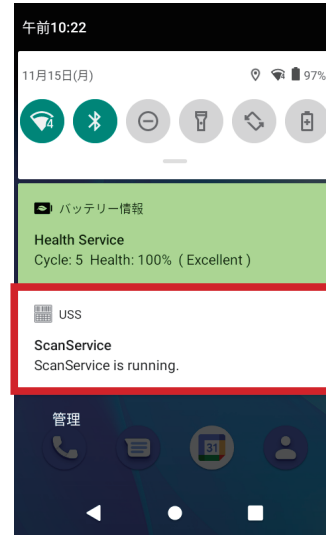
USS アプリを開始するには、2つの方法があります。

■ 通知パネルから開始する

USS がバックグラウンドで実行されている場合、ステータスバーを上から下へ向けてスワイプして通知パネルを開き、ScnaService の通知をタップして開始します。



《ホーム画面》



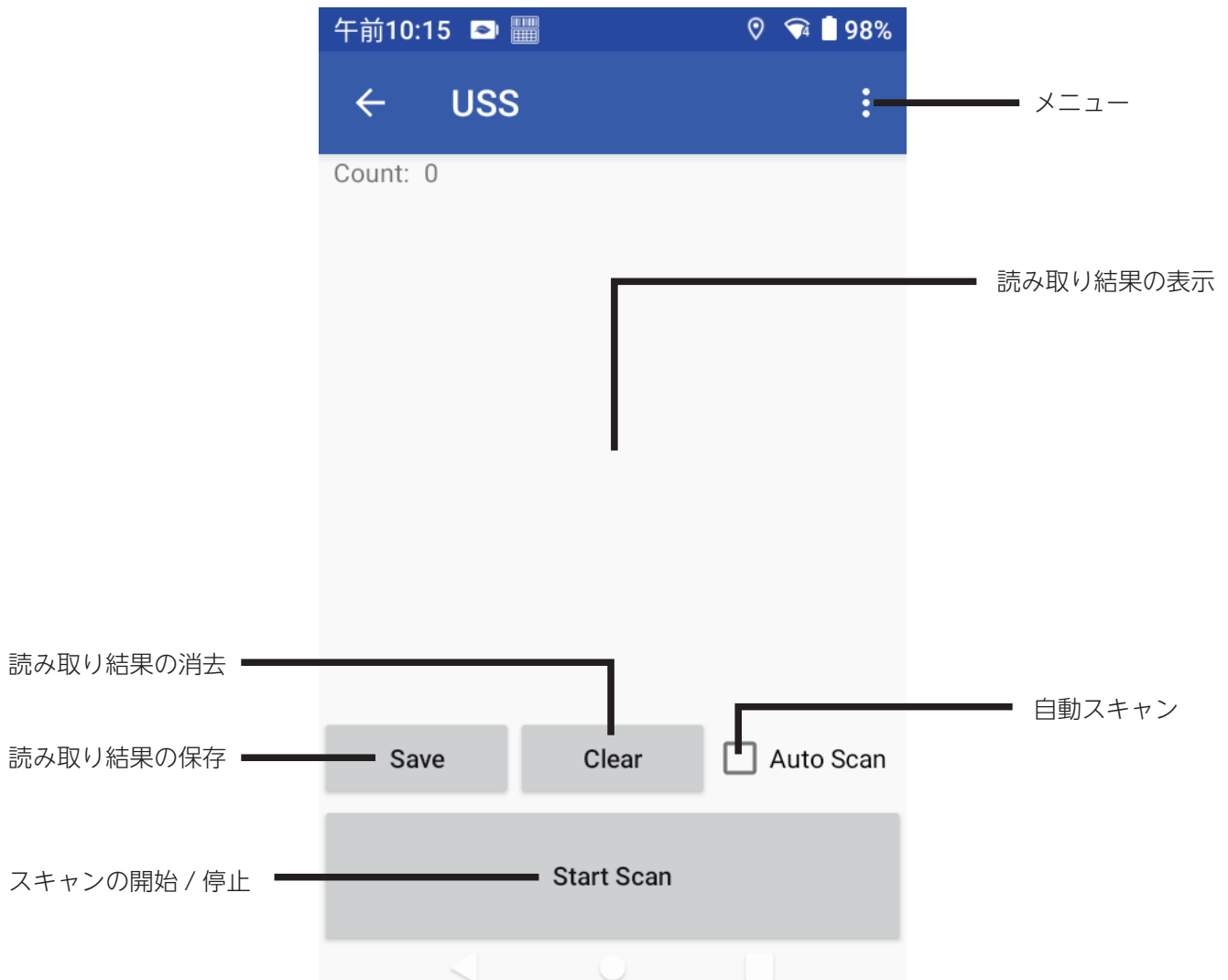
《通知パネル》

■ 設定から開始する

アプリ一覧画面から [設定] → [USS] をタップして開始します。

1.4 USS のメイン画面

USS アプリの GUI の説明を以下に示します。



1.4.1 バーコードの読取り

バーコードを読み取るためにスキャナーを起動するには、いくつかの方法があります。

- **Start Scan** ボタンをタップします。
- デバイスの左、右側面または前面キーパッドに物理的なスキャンキーがある場合は、それを押します。

1.4.2 バーコード読み取り結果の取得

バーコードがスキャナで読み取られると、コードタイプ、データ長、データ、デコード時間などのバーコードの詳細が USS の画面上に表示されます。Count の数値は、ユーザーが Clear ボタンをタップするまで、入力されたバーコードの数をカウントし続けます。

1.4.3 自動スキャン

自動スキャンは、定期的にスキャナを起動してバーコードを検出する機能です。検出間隔は、Auto Scan Interval Time(Sec) で変更できます。自動スキャンは、メイン画面の Auto Scan のチェックボックスにより自動スキャンの状態を簡単に変更することができます。



1.4.4 画像キャプチャ

[: メニュー] → [Image Capture] をタップして開始します。スキャナでプレビューしているときに、Image Capture ボタンをタップすると、画像をファイルに保存することができます。ファイルは常に /sdcard/USS/ に保存されます。

1.4.5 読み取り結果履歴の保存と消去

USS 上でスキャンした読み取り結果をファイルに保存するには、[Save] → [OK] をタップします。ファイルは /storage/emulated/0/ に保存され、デフォルトでは scan.txt という名前になります。スキャンした読み取り結果を画面から消去し、Count を 0 に戻すには、[Clear] をタップしてください。

第2章 Scanner Settings

ここでは、USS の Scanner Settings (スキャナ設定) を紹介しています。一部の設定は、その右側にあるスイッチをタップすることで簡単に有効 / 無効を切り替えることができます。スイッチの状態が  の場合はその機能が有効で、 の場合は無効であることを意味しています。また、一部の設定はタイトルをタップして変更できます。

それぞれのオプションに設定されるパラメータは、USS のバージョンやデバイスによって追加 / 削除されている場合があります。

- Trigger Modes.....12
- Picklist Mode.....12
- Mode Configuration.....13
- UpperLeftWindow.....13
- UpperLeftWindowY13
- LowerRightWindowX.....13
- LowerRightWindowY13
- Multi Decode Mode.....13
- Multi Decode Count14
- Decode Session Timeout.....14
- Transmit Code ID Character..14
- Transmit No Read Message ...14
- DPM Mode.....14
- Illumination Power Level14

2.1 Trigger Modes

Level は、トリガーボタンを押すと読み取りセッションを開始します。トリガーボタンを開放するか、バーコードを読み取るか、バーコードを読み取らずに Decode Session Timeout の期限が過ぎると読み取りセッションが終了します。新しい読み取りセッションを開始するには、ふたたびトリガーボタンを押す必要があります。

Continuous Mode は、トリガーボタンを押すと読み取りセッションを開始し、トリガーボタンを開放すると読み取りセッションが終了します。トリガーボタンを押している間は、バーコードを読み取るとすぐに次の読み取りセッションが開始され、バーコードを連続で読み取り続けることができます。

Aim Only は、読み取りセッション中の照明の点灯を行わず、照準パターンの投影のみを行いバーコードの読み取りを行います。その他の動作は Level と同等です。バーコードスキャナの照明は低照度環境下での適切なバーコード読み取りを提供します。このモードを使用すると、低照度環境下でのバーコードの読み取りに影響を与える可能性があります。

Read On Second Scan は、1 度目のトリガーボタンの押下により照準パターンのみを投影し、2 度目のトリガーボタンの押下によりバーコードの読み取りを行います。2 度目のトリガーボタン押下時の動作は Level と同等です。バーコードの読み取りのために 2 回のトリガーボタンの押下が必要です。

2.2 Picklist Mode

バーコードの狙い読みを行う場合は Enable を、狙い読みしない場合は Disable を選択します。Picklist Mode には、以下の 5 つの関連オプションが存在します。Picklist Mode を使用する場合は、これら 5 つのオプションも合わせて確認してください。

- Mode Configuration
- UpperLeftWindowX
- UpperLeftWindowY
- LowerRightWindowX
- LowerRightWindowY

2.3 Mode Configuration

Around Aimer は、投影された照準パターンの中心付近に重なったバーコードだけを読み取ります。

Field Of View は、UpperLeftWindowX、UpperLeftWindowY、LowerRightWindowX、LowerRightWindowY の4つのオプションを組み合わせ、スキャナの読み取り範囲を指定します。Field Of View は、バーコードとバーコードの間隔がほとんどなく、Around Aimer を使用しても希望のバーコードが読み取りできないような環境で使用できます。

2.4 UpperLeftWindow

読み取り範囲を長方形とした場合の左上角の X 軸の値を決定します。この値は、LowerRightWindowX よりも小さい値を設定する必要があります。

2.5 UpperLeftWindowY

読み取り範囲を長方形とした場合の左上角の Y 軸の値を決定します。この値は、LowerRightWindowY よりも小さい値を設定する必要があります。

2.6 LowerRightWindowX

読み取り範囲を長方形とした場合の右下角の X 軸の値を決定します。この値は、UpperLeftWindowX よりも大きい値を設定する必要があります。

2.7 LowerRightWindowY

読み取り範囲を長方形とした場合の右下角の Y 軸の値を決定します。この値は、UpperLeftWindowY よりも大きい値を設定する必要があります。

2.8 Multi Decode Mode

1回の読み取りセッションで複数のバーコードの読み取りを行う場合は Enable を、行わない場合は Disable を選択します。データはバーコードスキャナが読み取った順番に出力されます。読み取りセッションは、Multi Decode Count に設定された個数のバーコードを読み取るか、トリガーボタンを放すか、Decode Session Timeout の時間が経過すると終了します。

2.9 Multi Decode Count

Multi Decode Mode で使用する、1 回の読み取りセッションの間で読み取ることができるバーコードの上限個数を設定します。

2.10 Decode Session Timeout

1 回の読み取りセッションの最大時間を 100 ミリ秒単位で設定します。初期値は 99 (9,900 ミリ秒 = 9.9 秒) です。設定可能範囲は 1 ~ 99 ですが、スキャナの仕様の最小値は 500 ミリ秒ですので、1 から 5 までの値を設定しても違いは現れません。

2.11 Transmit Code ID Character

バーコードデータの前方に Code ID 文字を挿入して送信します。スキャナは次のフォーマットでデータを出力します。

```
{Preamble}{Code ID}{バーコードデータ}{Postamble}{Terminator}
```

None は、何も挿入しません。

AIM Code ID Character は、44 ページの「付録 A AIM コード ID リスト」を挿入します。

Symbol Code ID Character は、47 ページの「付録 B シンボルコード ID リスト」の ID 文字を挿入します。

2.12 Transmit No Read Message

1 回の読み取りセッションの期限の間に、バーコードの読み取りができなかったときに、「No Read」メッセージをホストへ送信する場合は Enable を、送信しない場合は Disable を選択します。このパラメーターが Enable の場合、バーコードの読み取りができなかった場合でも、「No Read」メッセージの受信時に読み取り成功音が鳴りますのでご注意ください。

2.13 DPM Mode



Enable に設定すると、ダイレクトパーツマーキング (DPM) された 1 次元コード、2 次元コードの読み取りを強化します。

- ✎ このパラメータを Enable にすることで、すべての DPM コードが読み取りできるようになるわけではありません。
- ✎ このパラメータを Enable にすると、紙面や液晶画面上に表示された通常コードの読み取り性能に影響を与える場合があります。
- ✎ ドット刻印された DPM コードは読み取りの対象外です。

2.14 Illumination Power Level

読み取りセッション中にスキャナエンジンが点灯する照明の明るさを設定します。数値が小さいほど暗く、大きいほど明るくなります。

第3章 Symbology Settings

ここでは、USS の Symbology Settings (バーコードの種類ごとの詳細設定) を紹介しています。一部の設定は、その右側にあるスイッチをタップすることで簡単に有効 / 無効を切り替えることができます。スイッチの状態が  の場合はその機能が有効で、 の場合は無効であることを意味しています。また、一部の設定はタイトルをタップして変更できます。

それぞれのオプションに設定されるパラメータは、USS のバージョンやデバイスによって追加 / 削除されている場合があります。

• UPC-A	16	• US Planet	25
• UPC-E	17	• Japan Postal	25
• EAN-8	18	• Australian Postal	25
• EAN-13	18	• Netherlands KIX Code	25
• Code 128	19	• USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail ...	25
• GS1- 128	20	• UPU FICS Postal	25
• ISBT 128	20	• PDF417	25
• Code 39	20	• MicroPDF417	26
• Trioptic Code 39	21	• Data Matrix	26
• Code 93	21	• Maxicode	26
• Code 11	21	• QR Code	26
• Interleaved 2 of 5	22	• Aztec	26
• Codabar	22	• Han Xin	26
• MSI	23	• Dot Code	26
• Matrix 2 of 5	24	• Composite CC-C	27
• GS1 DataBar	24	• Composite TLC-39	27
• GS1 DataBar Limited	24	• UCC Coupon Extended Code	27
• GS1 DataBar Expanded	24	• OCR	27
• US Postnet	24		

3.1 UPC-A

UPC-A の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.1.1 UPC-A Check Digit

UPC-A のチェックデジットを送信する場合は Enable、送信しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.1.2 UPC-A Addenda 2

UPC-A の右側に配置される 2 桁アドオンコードの読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

このパラメーターを Enable に設定した場合、UPC-A Addenda Required、UPC-A Addenda Separator の 2 つのパラメータも確認してください。

3.1.3 UPC-A Addenda 5

UPC-A の右側に配置される 5 桁アドオンコードの読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

このパラメーターを Enable に設定した場合、UPC-A Addenda Required、UPC-A Addenda Separator の 2 つのパラメータも確認してください。

3.1.4 UPC-A Addenda Required

UPC-A の右側に配置される 2 桁または 5 桁のアドオンコードの読み取りが必須の場合は Enable、必須でない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

このパラメーターが Enable のとき、アドオンコードが配置されていない単独の UPC-A は読み取ることはできません。

3.1.5 UPC-A Addenda Separator

UPC-A のデータとアドオンコードのデータの間半角スペースを挿入したい場合は Enable、挿入したくない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.1.6 UPC-A Preamble

UPC-A の先頭の文字を送信する場合は Enable、送信しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.1.7 Convert UPC-A to EAN-13

データの先頭に 0 を挿入して、UPC-A を 13 桁の JAN コードに変換する場合は Enable、変換しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

0 から始まる 13 桁の JAN コードを、0 を削除せず 13 桁のまま送信したい場合も、このパラメータを Enable に設定します。

3.2 UPC-E

UPC-E の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.2.1 UPC-E1

UPC-E1 の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.2.2 UPC-E Check Digit

UPC-E のチェックデジットを送信する場合は Enable、送信しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.2.3 Convert UPC-E to UPC-A

規格に沿って UPC-E を UPC-A に変換する場合は Enable、変換しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.2.4 UPC-E Addenda 2

UPC-E の右側に配置される 2 桁アドオンコードの読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

このパラメーターを Enable に設定した場合、UPC-E Addenda Required、UPC-E Addenda Separator の 2 つのパラメータも確認してください。

3.2.5 UPC-E Addenda 5

UPC-E の右側に配置される 5 桁アドオンコードの読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

このパラメーターを Enable に設定した場合、UPC-E Addenda Required、UPC-E Addenda Separator の 2 つのパラメータも確認してください。

3.2.6 UPC-E Addenda Required

UPC-E の右側に配置される 2 桁または 5 桁のアドオンコードの読み取りが必須の場合は Enable、必須でない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

このパラメーターが Enable のとき、アドオンコードが配置されていない単独の UPC-E は読み取ることはできません。

3.2.7 UPC-E Addenda Separator

UPC-E のデータとアドオンコードのデータの間半角スペースを挿入したい場合は Enable、挿入したくない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.2.8 UPC-E Preamble

UPC-E の先頭の文字を送信する場合は Enable、送信しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.3 EAN-8

EAN-8/JAN-8 (短縮 JAN コード) の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.3.1 EAN-8 Check Digit

EAN-8/JAN-8 (短縮 JAN コード) のチェックデジットを送信する場合は Enable、送信しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.3.2 EAN-8 Addenda 2

EAN-8/JAN-8 (短縮 JAN コード) の右側に配置される 2 桁アドオンコードの読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

このパラメーターを Enable に設定した場合、EAN-8 Addenda Required、EAN-8 Addenda Separator の 2 つのパラメータも確認してください。

3.3.3 EAN-8 Addenda 5

EAN-8/JAN-8 (短縮 JAN コード) の右側に配置される 5 桁アドオンコードの読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

このパラメーターを Enable に設定した場合、EAN-8 Addenda Required、EAN-8 Addenda Separator の 2 つのパラメータも確認してください。

3.3.4 EAN-8 Addenda Required

EAN-8/JAN-8 (短縮 JAN コード) の右側に配置される 2 桁または 5 桁のアドオンコードの読み取りが必須の場合は Enable、必須でない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

このパラメーターが Enable のとき、アドオンコードが配置されていない単独の EAN-8/JAN-8 (短縮 JAN コード) は読み取ることはできません。

3.3.5 EAN-8 Addenda Separator

EAN-8/JAN-8 (短縮 JAN コード) のデータとアドオンコードのデータの間半角スペースを挿入したい場合は Enable、挿入したくない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.4 EAN-13

EAN-13/JAN-13 (標準 JAN コード) の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.4.1 EAN-13 Check Digit

EAN-13/JAN-13 (標準 JAN コード) のチェックデジットを送信する場合は Enable、送信しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.4.2 EAN-13 Addenda 2

EAN-13/JAN-13 (標準 JAN コード) の右側に配置される 2 桁アドオンコードの読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

このパラメーターを Enable に設定した場合、EAN-13 Addenda Required、EAN-13 Addenda Separator の 2 つのパラメータも確認してください。

3.4.3 EAN-13 Addenda 5

EAN-13/JAN-13 (標準 JAN コード) の右側に配置される 5 桁アドオンコードの読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

このパラメーターを Enable に設定した場合、EAN-13 Addenda Required、EAN-13 Addenda Separator の 2 つのパラメータも確認してください。

3.4.4 EAN-13 Addenda Required

EAN-13/JAN-13 (標準 JAN コード) の右側に配置される 2 桁または 5 桁のアドオンコードの読み取りが必須の場合は Enable、必須でない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

このパラメーターが Enable のとき、アドオンコードが配置されていない単独の EAN-13/JAN-13 (標準 JAN コード) は読み取ることはできません。

3.4.5 EAN-13 Addenda Separator

EAN-13/JAN-13 (標準 JAN コード) のデータとアドオンコードのデータの間半角スペースを挿入したい場合は Enable、挿入したくない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.5 Code 128

Code 128 の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.5.1 Code 128 Min Length

Code 128 の読み取りを許可する最小文字数を設定します。初期値は 0 です。設定可能範囲は 0 ~ 80 です。

このパラメータよりも少ない文字数で構成された Code 128 を読取ることはできません。このパラメータは Code 128 Max Length 以下の値を設定する必要があります。

3.5.2 Code 128 Max Length

Code 128 の読み取りを許可する最大文字数を設定します。初期値は 80 です。設定可能範囲は 0 ~ 80 です。

このパラメータよりも多い文字数で構成された Code 128 を読取ることはできません。このパラメータは Code 128 Min Length 以上の値を設定する必要があります。

3.6 GS1- 128

GS1-128 の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.7 ISBT 128

ISBT 128 の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.8 Code 39

Code 39 の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.8.1 Convert 39 to Code 32

Code 39 を Code 32 に変換する場合は Enable、変換しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.8.2 Code 39 Min Length

Code 39 の読み取りを許可する最小文字数を設定します。初期値は 0 です。設定可能範囲は 0 ～ 48 です。

このパラメータよりも少ない文字数で構成された Code 39 を読取ることはできません。このパラメータは Code 39 Max Length 以下の値を設定する必要があります。

3.8.3 Code 39 Max Length

Code 39 の読み取りを許可する最大文字数を設定します。初期値は 48 です。設定可能範囲は 0 ～ 48 です。

このパラメータよりも多い文字数で構成された Code 39 を読取ることはできません。このパラメータは Code 39 Min Length 以上の値を設定する必要があります。

3.8.4 Code 39 Check Digit Verification

チェックデジットの検証をせずにすべてのデータを送信する場合は **No check**、チェックデジットの検証を行い合格したチェックデジットを含たデータを送信する場合は **Check Digit**、チェックデジットの検証を行い合格したチェックデジットを含めずにデータを送信する場合は **Check and Strip Digit** を選択します。初期値は No Check です。

このパラメータに Check Digit または Check and Strip Digit が選択されている場合、正しいチェックデジットを持つ Code 39 のみ読み取りを行います。

3.8.5 Code 39 Full ASCII Conversion

スキャンした Code 39 のデータをフルアスキーフォーマットで送信する場合は Enable、標準フォーマットで送信する場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

Code 39 フルアスキーフォーマットは、記号とアルファベットを組み合わせることで 1 文字を表現する特殊なフォーマットです。標準フォーマットでは対応できない文字をデータに含めることができます。

3.9 Trioptic Code 39

Trioptic Code 39 の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.10 Code 93

Code 93 の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.10.1 Code 93 Min Length

Code 93 の読み取りを許可する最小文字数を設定します。初期値は 0 です。設定可能範囲は 0 ～ 80 です。

このパラメータよりも少ない文字数で構成された Code 93 を読取ることはできません。このパラメータは Code 93 Max Length 以下の値を設定する必要があります。

3.10.2 Code 93 Max Length

Code 93 の読み取りを許可する最大文字数を設定します。初期値は 80 です。設定可能範囲は 0 ～ 80 です。

このパラメータよりも多い文字数で構成された Code 93 を読取ることはできません。このパラメータは Code 93 Min Length 以上の値を設定する必要があります。

3.11 Code 11

Code 11 の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.11.1 Code 11 Min Length

Code 11 の読み取りを許可する最小文字数を設定します。初期値は 4 です。設定可能範囲は 1 ～ 80 です。

このパラメータよりも少ない文字数で構成された Code 11 を読取ることはできません。このパラメータは Code 11 Max Length 以下の値を設定する必要があります。

3.11.2 Code 11 Max Length

Code 11 の読み取りを許可する最大文字数を設定します。初期値は 80 です。設定可能範囲は 1 ～ 80 です。

このパラメータよりも多い文字数で構成された Code 11 を読取ることはできません。このパラメータは Code 11 Min Length 以上の値を設定する必要があります。

3.11.3 Code 11 Check Digit Verification

Code 11 は 1 文字または 2 文字のチェックデジットを必須とする規格です。2 文字のチェックデジットの検証を行い合格したチェックデジットを含むデータを送信する場合は **Double Check**、1 文字のチェックデジットの検証を行い合格したチェックデジットを含むデータを送信する場合は **Single Check**、2 文字のチェックデジットの検証を行い合格したチェックデジットを含めずにデータを送信する場合は **Double Check and Strip Digit**、1 文字のチェックデジットの検証を行い合格したチェックデジットを含めずにデータを送信する場合は **Single Check and Strip Digit** を選択します。初期値は Double Check and Strip Digit です。

3.12 Interleaved 2 of 5

Interleaved 2 of 5 (ITF コード) の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.12.1 Interleaved 2 of 5 Min Length

Interleaved 2 of 5 (ITF コード) の読み取りを許可する最小文字数を設定します。初期値は 4 です。設定可能範囲は 2 ~ 80 です。

このパラメータよりも少ない文字数で構成された Interleaved 2 of 5 (ITF コード) を読取ることはできません。このパラメータは Interleaved 2 of 5 Max Length 以下の値を設定する必要があります。

3.12.2 Interleaved 2 of 5 Max Length

Interleaved 2 of 5 (ITF コード) の読み取りを許可する最大文字数を設定します。初期値は 80 です。設定可能範囲は 2 ~ 80 です。

このパラメータよりも多い文字数で構成された Interleaved 2 of 5 (ITF コード) を読取ることはできません。このパラメータは Interleaved 2 of 5 Min Length 以上の値を設定する必要があります。

3.12.3 Interleaved 2 of 5 Check Digit Verification

チェックデジットの検証をせずにすべてのデータを送信する場合は **No check**、チェックデジットの検証を行い合格したチェックデジットを含めたデータを送信する場合は **Check Digit**、チェックデジットの検証を行い合格したチェックデジットを含めずにデータを送信する場合は **Check and Strip Digit** を選択します。初期値は **No Check** です。

このパラメータに Check Digit または Check and Strip Digit が選択されている場合、正しいチェックデジットを持つ Interleaved 2 of 5 のみ読み取りを行います。

3.13 Codabar

Codabar (または NW7) の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.13.1 Codabar Min Length

Codabar (または NW7) の読み取りを許可する最小文字数を設定します。初期値は 4 です。設定可能範囲は 2 ~ 60 です。

このパラメータよりも少ない文字数で構成された Codabar (NW7) を読取ることはできません。このパラメータは Codabar Max Length 以下の値を設定する必要があります。

3.13.2 Codabar Max Length

Codabar (または NW7) の読み取りを許可する最大文字数を設定します。初期値は 60 です。設定可能範囲は 2 ~ 60 です。

このパラメータよりも多い文字数で構成された Codabar (NW7) を読取ることはできません。このパラメータは Codabar Min Length 以上の値を設定する必要があります。

3.13.3 NOTIS Editing

Codabar はデータの前後にスタート文字・ストップ文字としてアルファベットの A ~ D のいずれかの 1 文字が配置されています。これらのスタート・ストップ文字をデータに含めて送信しない場合は Enable、データに含めて送信する場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.14 MSI

MSI の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.14.1 MSI Min Length

MSI の読み取りを許可する最小文字数を設定します。初期値は 4 です。設定可能範囲は 4 ~ 48 です。

このパラメータよりも少ない文字数で構成された MSI を読取ることはできません。このパラメータは MSI Max Length 以下の値を設定する必要があります。

3.14.2 MSI Max Length

MSI の読み取りを許可する最大文字数を設定します。初期値は 48 です。設定可能範囲は 4 ~ 48 です。

このパラメータよりも多い文字数で構成された MSI を読取ることはできません。このパラメータは MSI Min Length 以上の値を設定する必要があります。

3.14.3 MSI Check Digit Algorithm

MSI のチェックデジットはオプションで 1 文字または 2 文字です。チェックデジットの検証をせずにすべてのデータを送信する場合は **No check**、1 文字のチェックデジットの検証をモジュラス 10 で行い合格したチェックデジットを含むデータを送信する場合は **Check Modulo 10**、2 字のチェックデジットの検証をモジュラス 11/モジュラス 10 で行い合格したチェックデジットを含むデータを送信する場合は **Check Modulo 11 plus 10**、2 文字のチェックデジットの検証をモジュラス 10/モジュラス 10 で行い合格したチェックデジットを含むデータを送信する場合は **Double Check Modulo 10**、1 文字のチェックデジットの検証をモジュラス 10 で行い合格したチェックデジットを含めずにデータを送信する場合は **Check and Strip Modulo 10**、2 文字

のチェックデジットの検証をモジュラス 11/モジュラス 10 で行い合格したチェックデジットを含めずにデータを送信する場合は **Check and Strip Modulo 11 plus 10**、2文字のチェックデジットの検証をモジュラス 10/モジュラス 10 で行い合格したチェックデジットを含めずにデータを送信する場合は **Double Check and Strip Modulo 10** を選択します。初期値は No Check です。

3.15 Matrix 2 of 5

Matrix 2 of 5 の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.15.1 Matrix 2 of 5 Min Length

Matrix 2 of 5 の読み取りを許可する最小文字数を設定します。初期値は 4 です。設定可能範囲は 4～80 です。このパラメータよりも少ない文字数で構成された Matrix 2 of 5 を読取ることはできません。このパラメータは Matrix 2 of 5 Max Length 以下の値を設定する必要があります。

3.15.2 Matrix 2 of 5 Max Length

Matrix 2 of 5 の読み取りを許可する最大文字数を設定します。初期値は 80 です。設定可能範囲は 4～80 です。このパラメータよりも多い文字数で構成された Matrix 2 of 5 を読取ることはできません。このパラメータは Matrix 2 of 5 Min Length 以上の値を設定する必要があります。

3.16 GS1DataBar

GS1DataBar の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.17 GS1DataBar Limited

GS1DataBar Limited の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.18 GS1DataBar Expanded

GS1DataBar Expanded の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.19 US Postnet

US Postnet の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

Japan Postal、Australian Postal、Netherlands KIX Code と同時に Enable に設定することはできません。

3.20 US Planet

US Planet の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

Japan Postal、Australian Postal、Netherlands KIX Code と同時に Enable に設定することはできません。

3.21 Japan Postal

Japan Postal (日本郵便カスタマバーコード) の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

US Postnet、US Planet、Australian Postal、Netherlands KIX Code、USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail、UPU FICS Postal と同時に Enable に設定することはできません。

3.22 Australian Postal

Australian Postal の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

US Postnet、US Planet、Japan Postal、Netherlands KIX Code、USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail、UPU FICS Postal と同時に Enable に設定することはできません。

3.23 Netherlands KIX Code

Netherlands KIX Code の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

US Postnet、US Planet、Japan Postal、Australian Postal、USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail、UPU FICS Postal と同時に Enable に設定することはできません。

3.24 USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail

USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

Japan Postal、Australian Postal、Netherlands KIX Code と同時に Enable に設定することはできません。

3.25 UPU FICS Postal

UPU FICS Postal の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

Japan Postal、Australian Postal、Netherlands KIX Code と同時に Enable に設定することはできません。

3.26 PDF417

PDF417 の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.27 MicroPDF417

MicroPDF417 の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.28 Data Matrix

Data Matrix の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.28.1 Data Matrix Symbol Size

標準よりも小さな Data Matrix の読み取り性能を強化します。標準サイズを読み取る場合は **Normal**、少し小さなサイズを読み取る場合は **Small**、とても小さいサイズを読み取る場合は **Very Small** を選択します。初期値は Small です。

このパラメータを Enable にすることで、どんなサイズの Data Matrix でも読み取りできるようになるわけではありません。

3.29 Maxicode

Maxicode の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.30 QR Code

QR Code/ マイクロ QR コード / 連結 (分割) QR コードの読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.31 Aztec

Aztec の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.32 Han Xin

Han Xin の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.33 Dot Code

Dot Code の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

3.34 Composite CC-C

Composite CC-C の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.35 Composite TLC-39

Composite TLC-39 の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.36 UCC Coupon Extended Code

UCC Coupon Extended Code の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

3.37 OCR

OCR の読み取りを許可する場合は Enable、許可しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

バーコードスキャナのサポートする OCR 専用フォントのみ読み取りの対象となります。MS ゴシックなどの一般フォントは対象外です。

サポートされている OCR 専用フォントは、**OCR-A** フォント、**OCR-B** フォント、**MICR E13B** フォントの 3 種類です。

3.37.1 OCR Mode

背景が明で文字が暗の OCR フォントを読み取る場合は **OCR Normal Video**、背景が暗で文字が明の OCR フォントを読み取る場合は **OCR Inverse**、背景と文字の明暗を自動識別して読み取る場合は **OCR Both** を選択します。初期値は OCR Both です。

OCR Both は、OCR Normal Video または OCR Inverse に比べて OCR の読み取りが遅い場合があります。

3.37.2 OCR Template

適切な OCR Template を選択することで複雑な文字列を認識できたり、誤読を低減させることができます。初期値は Passport です。

User Defined は、OCR User Template と組み合わせて使用します。

Passport、**ISBN**、**Price Field**、**MICR E13B** は定められた規格の通りの OCR 認識を行います。

OCR-A、**OCR-B**、**OCR-A + B** は、特別なテンプレートは持たず、1 行で構成された OCR 文字列を自動的に認識します。

2 行以上の OCR 認識を行いたい場合は **User Defined** を使用します。OCR-A、OCR-B、OCR-A + B を選択して誤読が発生する場合は、**User Defined** を使用することをお勧めします。

3.37.3 OCR User Template

OCR Template の User Defined と組み合わせて使用します。設定するテンプレート文字列は 1 文字ずつカンマで区切って入力します。初期値は 1,3,7,7,7,7,7,7,0 です。

実際のテンプレートは、テンプレート開始 (1) から始まり、テンプレート終了 (0) で終わらなければなりません。あいだは、フォント選択 (1,2,3 または 4) から始まります。テンプレートは次のフォーマットで構成されます。

{テンプレート開始}{フォント選択}{ワイルドカード(複数)}{テンプレート終了}



テンプレート	値	説明
テンプレート開始	1	テンプレート文字列の先頭
テンプレート終了	0	テンプレート文字列の終了
フォント選択	1、2、3 または 4	読み取り対象とする OCR フォントの選択 1 - OCR-A 2 - OCR-B 3 - OCR-A および OCR-B 4 - MICR E-13B
ワイルドカード：数字	5	[0 - 9] の数字を表します
ワイルドカード：英字	6	[A - Z(大文字)] の英字を表します
ワイルドカード：英数字	7	[0 - 9] [A - Z(大文字)] の英数字を表します
ワイルドカード：すべて	8	スペースを含むすべての文字列

たとえば次のような OCR-B フォントで表記された文字列を読み取る場合のテンプレートは次の通りです。

テンプレート文字列 = 1,2,7,7,7,7,8,7,7,7,7,8,7,7,7,7,0 (または、1,2,8,8,8,8,8,8,8,8,8,8,8,8,0)

A1B2-C3D4-E5F6
 ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑
 7 7 7 7 8 7 7 7 7 8 7 7 7 7

第4章 App Settings

ここでは、USS の App Settings (USS 特有の設定) を紹介しています。一部の設定は、その右側にあるスイッチをタップすることで簡単に有効 / 無効を切り替えることができます。スイッチの状態が  の場合はその機能が有効で、 の場合は無効であることを意味しています。また、一部の設定はタイトルをタップして変更できます。

それぞれのオプションに設定されるパラメータは、USS のバージョンやデバイスによって追加 / 削除されている場合があります。

- Scan to key29
- Interchar Delay Time(ms)29
- Output method29
- Auto Scan29
- Auto Scan Interval Time(sec).....30
- Screen Button30
- Sound.....30
- Frequency30
- Duration Time.....30
- Vibration.....30
- Start App in boot.....30
- Intent Action.....30
- Intent Extra30

4.1 Scan to key

スキャナーがスキャンしたバーコードデータをキーボードバッファを介して出力する場合は Enable、Android インテントで出力する場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

4.2 Interchar Delay Time(ms)

バーコードデータを 1 文字出力するごとに、次の 1 文字を出力するまでの待機時間をミリ秒単位で設定します。初期値は 0 (0 ミリ秒) です。設定可能範囲は、0 ~ 10000 (0 ミリ秒 ~ 10,000 ミリ秒) です。

Scan to key が Enable で、Output method が Key Event の場合に適用されます。

4.3 Output method

Scan to key が有効のとき、データをキーイベントとして出力する場合は **Key Event**、コピー & 貼り付けとして出力する場合は **Copy/Paste** を選択します。**Auto** は、デバイスの入力状態に応じて最適な方法を使用します。

Copy/Paste は、デバイスの仮想キーボードの状態に影響を受けない文字入力が可能です。データを受け取るアプリケーションによっては正常に受け取れない場合がありますので注意してください。

4.4 Auto Scan

自動スキャンを使用する場合は Enable、使用しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。これは、メイン画面の Auto Scan のチェック状態と連動します。

4.5 Auto Scan Interval Time(sec)

自動スキヤンのトリガー間隔を秒単位で設定します。

4.6 Screen Button

画面上にソフトウェアトリガーボタンを表示する場合は Enable、非表示にする場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

4.7 Sound

バーコードの読み取りに成功したとき、音によってユーザーに通知する場合は Enable、通知しない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

4.8 Frequency

Soundの周波数(音程)を選択します。**Bass**は低音、**Normal**は中音、**Sharp**は高音です。初期値は Normal です。

4.9 Duration Time

Soundの発音時間を選択します。**Short**は短時間、**Medium**は標準時間、**Long**は長時間です。初期値は Medium です。

4.10 Vibration

バーコードの読み取りに成功したとき、振動によってユーザーに通知する場合は Enable、通知しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

4.11 Start App in boot

デバイス起動時にUSSを自動的に起動したい場合は Enable、そうでない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

USSが起動していないとバーコードの読み取りが行えませんが、Enableに設定しておくことをお勧めします。



4.12 Intent Action

Scan to key が Disable のときに送信される Android インテントのアクションを設定します。

4.13 Intent Extra

Scan to key が Disable のときに送信される Android インテントのエクストラキーを設定します。

第5章 Append Settings

ここでは、USS の Append Settings (バーコードデータへの文字の追加、削除などの設定) を紹介しています。一部の設定は、その右側にあるスイッチをタップすることで簡単に有効/無効を切り替えることができます。スイッチの状態が  の場合はその機能が有効で、 の場合は無効であることを意味しています。また、一部の設定はタイトルをタップして変更できます。それぞれのオプションに設定されるパラメータは、USS のバージョンやデバイスによって追加/削除されている場合があります。

• Preamble	31	• GS1-128 Character After AI	33
• Postamble	31	• Apply AI to All Symbologies.....	33
• Terminator	32	• Apply AI to Data Matrix Also.....	33
• Encoding.....	32	• HIBC LIC	33
• GS1-128 Field Separator.....	32	• HIBC LIC Group Separator	33
• Apply GS to all Symbologies.....	32	• HIBC LIC Record Separator	34
• GS1-128 Application Identifier.....	32	• HIBC LIC End Of Transmission.....	34
• GS1-128 Char Before AI.....	32	• HIBC LIC Header/Trailer	34

5.1 Preamble

Preamble に設定した文字列を、スキャンしたデータの前方に挿入して出力します。空の値は「出力なし」を意味します。初期値は出力なしです。

設定できる文字は、印刷可能な ASCII 文字のみです。制御コードや Enter、Tab などの機能キーを設定することはできません。

スキャナは次のフォーマットでデータを出力します。

```
{Preamble}{Code ID}{バーコードデータ}{Postamble}{Terminator}
```

5.2 Postamble

Postamble に設定した文字列を、スキャンしたデータの後ろに挿入して出力します。空の値は「出力なし」を意味します。初期値は出力なしです。

設定できる文字は、印刷可能な ASCII 文字のみです。制御コードや Enter、Tab などの機能キーを設定することはできません。

スキャナは次のフォーマットでデータを出力します。

```
{Preamble}{Code ID}{バーコードデータ}{Postamble}{Terminator}
```

5.3 Terminator

Terminator を、スキャンしたデータの末尾に挿入して出力します。空の値は「出力なし」を意味します。初期値は <LF> です。

設定できる文字は 2 つの特殊なキーのみです。<LF> は Enter(改行や実行) を、<TAB> は Tab を表します。スキャナは次のフォーマットでデータを出力します。

```
{Preamble}{Code ID}{バーコードデータ}{Postamble}{Terminator}
```

5.4 Encoding

スキャンしたバーコードデータの文字エンコーディングを設定します。初期値は UTF-8 です。

スキャンする 2 次元コードのエンコード方式に合わせて選択してください。スキャンしたデータの文字列が文字化けする場合は、この値を適切に設定することで解消できる場合があります。

国内で使用される QR コードのほとんどは Shift_JIS エンコードです。続いて、UTF-8 エンコードが使用されています。GBK、BIG5、Unicode エンコードが使用されることは、ほとんどありません。

5.5 GS1-128 Field Separator

GS1-128 Field Separator に設定した文字列を、スキャンした GS1-128 のすべてのフィールド区切り (GS/FNC1) の位置に挿入して出力します。空の値は「出力なし」を意味します。初期値は出力なしです。

設定できる文字は、印刷可能な ASCII 文字のみです。制御コードや Enter、Tab などの機能キーを設定することはできません。

5.6 Apply GS to all Symbologies

GS1-128 以外のすべてのバーコードシンボルのグループセパレータを GS1-128 Field Separator で設定された文字列に置き換える場合は Enable は、GS1-128 のグループセパレータのみを置き換える場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

5.7 GS1-128 Application Identifier

GS1-128 の AI 制御を行い、GS1-128 Char Before AI および GS1-128 Character After AI を使用したい場合は Enable、AI 制御を行わない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

5.8 GS1-128 Char Before AI

GS1-128 Char Before AI に設定した文字列を、スキャンした GS1-128 のすべての AI の直前に挿入して出力します。空の値は「出力なし」を意味します。初期値は出力なしです。

設定できる文字は、印刷可能な ASCII 文字のみです。制御コードや Enter、Tab などの機能キーを設定することはできません。

5.9 GS1-128 Character After AI

GS1-128 Character After AI に設定した文字列を、スキャンした GS1-128 のすべての AI の直後に挿入して出力します。空の値は「出力なし」を意味します。初期値は出力なしです。

設定できる文字は、印刷可能な ASCII 文字のみです。制御コードや Enter、Tab などの機能キーを設定することはできません。

5.10 Apply AI to All Symbologies

GS1 DataBar ファミリー、GS1 DataMatrix、GS1 QR コードの AI 制御を行い GS1-128 Char Before AI および GS1-128 Character After AI を使用したい場合は Enable、AI 制御を行わない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

前提として、GS1-128 Application Identifier が Enable に設定されている必要があります。

5.11 Apply AI to Data Matrix Also

GS1 DataBar ファミリー、GS1 DataMatrix の AI 制御を行い GS1-128 Char Before AI および GS1-128 Character After AI を使用したい場合は Enable、AI 制御を行わない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

前提として、GS1-128 Application Identifier が Enable に設定されている必要があります。

5.12 HIBC LIC

特定フォーマットに対する特別な制御を行い、HIBC LIC Group Separator、HIBC LIC Record Separator、HIBC LIC End Of Transmission および HIBC LIC Header/Trailer を使用したい場合は Enable、特定フォーマットに対する特別な制御を行わない場合は Disable を選択します。初期値は Enable です。

特定フォーマットの例：

```
[ ]>06{RS}25PRHB123123456{GS}26Q0{GS}1TL123{GS}S12345678934{EOT}
```

5.13 HIBC LIC Group Separator

HIBC LIC Group Separator に設定した文字列を、特定フォーマットのすべての {GS} の位置に挿入して出力します。空の値は「出力なし」を意味します。初期値は出力なしです。

設定できる文字は、印刷可能な ASCII 文字のみです。制御コードや Enter、Tab などの機能キーを設定することはできません。

5.14 HIBC LIC Record Separator

HIBC LIC Record Separator に設定した文字列を、特定フォーマットのすべての {RS} の位置に挿入して出力します。空の値は「出力なし」を意味します。初期値は出力なしです。

設定できる文字は、印刷可能な ASCII 文字のみです。制御コードや Enter、Tab などの機能キーを設定することはできません。

5.15 HIBC LIC End Of Transmission

HIBC LIC End Of Transmission に設定した文字列を、特定フォーマットのすべての {EOT} の位置に挿入して出力します。空の値は「出力なし」を意味します。初期値は出力なしです。

設定できる文字は、印刷可能な ASCII 文字のみです。制御コードや Enter、Tab などの機能キーを設定することはできません。

5.16 HIBC LIC Header/Trailer

特定フォーマットのヘッダ/トレーラを送信する場合は Enable、送信しない場合は Disable を選択します。初期値は Disable です。

第6章 Save/Load

ここでは、USS の Save/Load (USS の設定の保存と読み込み) を紹介しています。

- Save Settings35
- Load Settings.....35

6.1 Save Settings

現在の USS の設定情報をファイルに保存します。ファイル名は「USSETTING.CFG」と「USSETTINGS.INI」に固定されています。設定ファイルが保存される標準パスはデバイスの「内蔵ストレージのルートディレクトリ」です。空の値は標準パスを指定します。

「USSETTINGS.CFG」には Scanner Settings および Symbology Settings の設定情報が、「USSETTINGS.INI」には App Settings および Append Settings の設定情報が、それぞれ保存されています。

6.2 Load Settings

USS の設定情報をファイルから読み込みます。ファイル名は「USSETTING.CFG」と「USSETTINGS.INI」に固定されています。設定ファイルが読み込まれる標準パスは「内蔵ストレージのルートディレクトリ」です。空の値は標準パスを指定します。

「USSETTINGS.CFG」には Scanner Settings および Symbology Settings の設定情報が、「USSETTINGS.INI」には App Settings および Append Settings の設定情報が、それぞれ保存されています。

「USSETTING.CFG」および「USSETTINGS.INI」の双方のファイルが完全な状態で揃っていない場合、設定ファイルの読み込みは失敗します。

第7章 Factory Default

ここでは、USS の Factory Default (USS の設定を初期の状態へ戻す) を紹介しています。

- Factory Default.....36

7.1 Factory Default

現在の設定情報を破棄し、ご購入時の初期状態に USS の設定をリセットします。この操作は取り消すことができませんのでご注意ください。

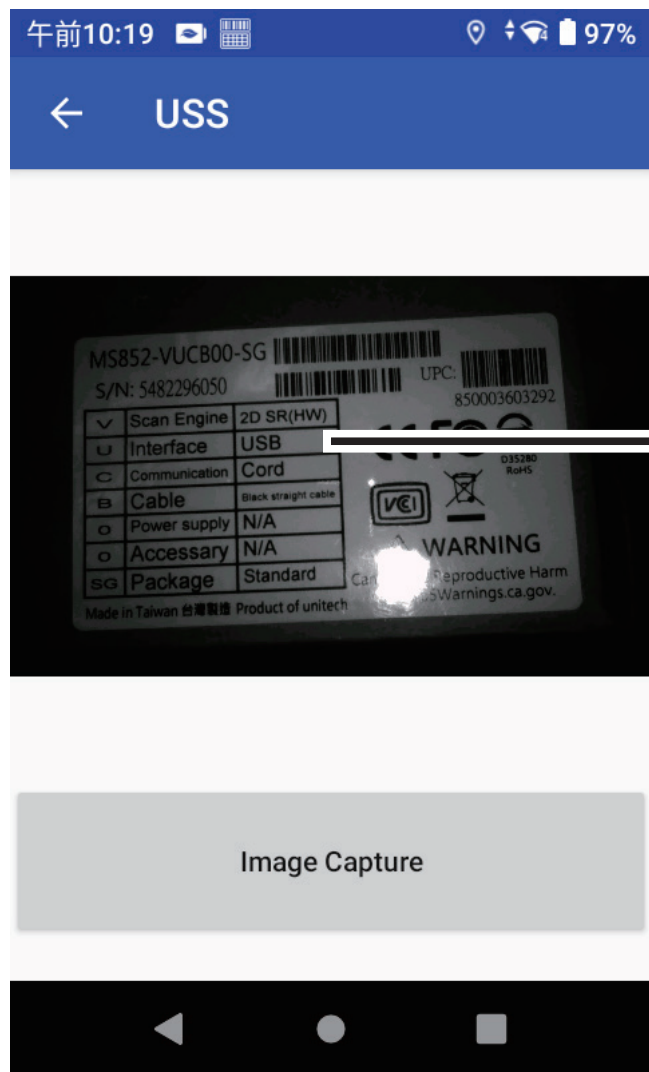
第8章 Image Capture

ここでは、USS の Image Capture (バーコードスキャナを使用した画像撮影) を紹介しています。

- Image Capture37

8.1 Image Capture

プレビューウィンドウに現在のプレビューが表示されます。Image Capture ボタンをタップすると、プレビューウィンドウに表示されている画像が保存されます。保存された画像ファイルは /sdcard/USS/ に保存されます。



プレビューウィンドウ

« Image Capture »

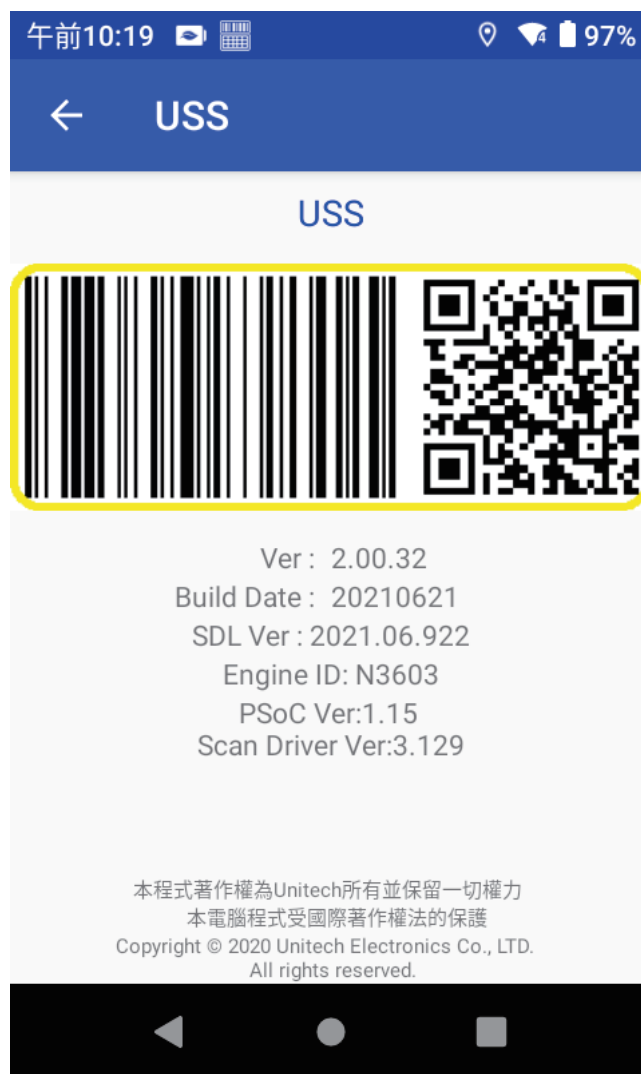
第9章 Version

ここでは、USS の Version (USS のバージョン情報の表示) を紹介しています。

- Version.....38

9.1 Version

この画面では USS のバージョン情報が表示されます。お問い合わせいただく場合などに必要な情報です。



≪ USS のバージョン情報 ≫

第 10 章 Exit

ここでは、USS の Exit (USS の終了) を紹介しています。

- Hide.....39
- Exit.....39

10.1 Hide

USS を終了させずにバックグラウンドへ移動させます。バックボタンやホームボタンを押した場合と同様の動作です。USS が終了するとバーコードのスクランができなくなるため、通常はこちらをご利用ください。

10.2 Exit

USS を終了し、スキャナの電源をオフします。

第 11 章 データ編集

11.1 データ編集とは

バーコードスキャナが読み取ったバーコードのデータの一部またはすべてを追加・削除・抽出・置換など、加工して出力するための機能です。

11.2 データ編集機能を使用するには

データの編集機能を有効化するには、デバイスのルートディレクトリ (MoboLink.conf ファイルが保存されている場所) に **rule.txt** というファイル名のテキストファイルを保存し、USS(またはデバイス自体) を再起動します。

USS は、その起動時にデバイスのルートディレクトリに **rule.txt** が存在する場合、このファイルを読み込み、バーコードスキャナで読み取ったバーコードのデータに、このファイル内に記述されている編集ルールを適用して最終的な出力データとして **Scan To Key** で出力します。データ編集機能を使用するには、USS の **App Settings** の **Scan to key** が **Enable** でなければなりません。

インテントによるデータ出力ではこのルールは適用できず、データ編集機能を使用することはできません。

データ編集機能を無効化したい場合は、**rule.txt** を削除し、USS(またはデバイス自体) を再起動します。

11.3 rule.txt

USS は、最大 10 セットのルールをサポートしています。ルールセットは、**0** 番から **9** 番までです。ルールセットは 0 番から順に使用されます。

バーコードスキャナの読み取ったバーコードのデータに対して 0 番のルールセットの**検索条件**が一致した場合、そのセット内の**データ編集ルール**が使用され、そこで停止します。0 番のルールセットの**検索条件**が一致しなかった場合は、次の 1 番のルールセットに対して確認を行います。これを 9 番まで繰り返します。

9 番のルールセットの**検索条件**まですべて一致しなかった場合は、空の文字列が出力されます。**検索条件**に当てはまらなかった場合に、未編集のデータを出力したい場合は、9 番目のルールセットとして、次のルールを入力してください。

```
q,9,t,0  
m,9,s,0,0
```

各ルールセットには、少なくとも 1 つの**検索条件**が必要です。1 つのルールセットに、複数の**検索条件**を含めることができます。そして、すべての**検索条件**に一致した場合のみ、**データ編集ルール**が適用されます。**検索条件**が含まれていない場合、未編集のデータが出力されます。

rule.txt の各行は、少なくとも 4 つのセクションで構成されます。また、各セクションはコンマで区切られます。

1 番目のセクションでは、このルール行が**検索条件**であるか、**データ編集ルール**であるかを示します。**検索条件**の場合は **q**、**データ編集ルール**の場合は **m** を指定します。

2 番目のセクションは、このルール行がどのルールセットに属するかを示します。これは 0 から 9 までの値でなければなりません。

3 番目以降のセクションは、このルール行が「**検索条件**」の場合：か「**データ編集ルール**」の場合：かによって異なります。

■ 「検索条件」の場合：

各セクション文字は、1 つのルールセットに対して 1 度だけ存在することができます。同じセクション文字が、1 つのルールセットに複数回現れる場合は、最後のものだけが適用されます。

説明	検索条件の対象とするシンボルを設定します。
セクション文字	t
オプション 1	検索条件の対象としたいシンボルの数。すべてのシンボルを対象としたい場合は 0 をセットします。0 以外の値をセットした場合は、セットした数だけオプション 2 以降もセットします。
オプション 2	(省略可) 検索の対象としたいシンボルの ID。複数を条件に加えるには、カンマで区切って入力します。47 ページの「付録 B シンボルコード ID リスト」から探して rule.txt の値をセットします。
使用例	すべてのシンボル： q,0,t,0 Code 128 と QR コード： q,0,t,2,3,28

説明	検索条件の対象とするバーコードの文字数を設定します。
セクション文字	s
オプション 1	比較条件。0= 等しい、1= より小さい、2= より大きい
オプション 2	比較対象の数値。
使用例	7 文字以上で構成されるバーコード： q,0,s,2,6

説明	正規表現によるマッチングを設定します。
セクション文字	e
オプション	JAVA 言語の正規表現
使用例	英小文字を含むバーコード： q,0,e,[a-z]

組み合わせの例として、対象が「QR コード」で「10 文字」の「数字のみ」で構成されているコードを対象とする場合の**検索条件**は次の通りです。

```
q,0,t,1,28
q,0,s,0,10
q,0,e,^[0-9]+$
```

■ 「データ編集ルール」の場合：

各セクション文字は、1つのルールセットに対して1度だけ存在することができます。同じセクション文字が、1つのルールセットに複数回現れる場合は、最後のものだけが適用されます。

説明	バーコードデータから文字列の選択を行います。選択した文字列は、他に編集ルールが存在しない場合は、最終的な出力結果となります。
セクション文字	s
オプション 1	開始位置。開始位置は、セットした文字の直後になります。4文字目からを対象とする場合は3をセットします。
オプション 2	選択する文字数。0をセットすると、開始位置以降のすべての文字を選択します。
使用例	4文字目から6文字：m,0,s,3,6

説明	正規表現で一致した文字を別の文字に置換します。
セクション文字	r
オプション 1	JAVA 言語の正規表現
オプション 2	置き換える文字
使用例	すべてのカンマを改行に置換：m,0,r,...{[0A]}

説明	文字の挿入を行います。
セクション文字	i
オプション 1	挿入開始位置。0をセットすると、バーコードデータの先頭に挿入します。-1をセットすると、バーコードデータの末尾に挿入します。
オプション 2	挿入する文字。
使用例	末尾に END を挿入：m,0,i,-1,END

説明	文字列の文字種（大文字 / 小文字）の変換を行います。
セクション文字	c
オプション	文字種。1= すべて小文字に変換、2= すべて大文字に変換
使用例	すべて大文字：m,0,c,2

11.4 サンプル

すべてのシンボルを対象に 4 文字目から 6 文字を最終的な結果として出力

q,0,t,0
m,0,s,3,6

QR コードに対しては、含まれるすべての空白を削除したデータを、その他のシンボルに対してはそのままのオリジナルデータを最終的な結果として出力。

q,0,t,1,28
m,0,r, , ←第 4 セクション (置換) は半角スペース、第 5 セクション (置換後) は何も入力していません。
q,9,t,0
m,9,s,0,0

第12章 付録

付録A AIMコードIDリスト

AIMコードIDは3つの識別子（]cm）を含んで表示されます。

-] = フラグ文字
- c = コード文字
- m = 修飾文字

AIM ID	シンボル名	説明
]A0	Code39	チェックデジットの検証なし、フル ASCII フォーマット変換なし。
]A1		モジュラス 43 のチェックデジットが検証され、送信される。
]A3		モジュラス 43 のチェックデジットが検証され、送信されない。
]A4		フル ASCII フォーマット変換あり、チェックデジットの検証なし。
]A5		フル ASCII フォーマット変換あり、モジュラス 43 のチェックデジットが検証され、送信される。
]A7		フル ASCII フォーマット変換あり、モジュラス 43 のチェックデジットが検証され、送信されない。
]B0	Telepen	フル ASCII モード
]B1		倍密度数字モード
]B2		倍密度数字の後に続いてフル ASCII。
]B4		フル ASCII の後に続いて倍密度数字。
]C0	Code128	標準。スタートキャラクタの後の、1 番目または 2 番目のシンボルキャラクタの位置に FNC1 がない。
]C1		1 番目のシンボルキャラクタの位置に FNC1 がある。
]C2		2 番目のシンボルキャラクタの位置に FNC1 がある。
]C4		国際輸血協会（ISBT、International Society for Blood Transfusion）の仕様に従った連結が実行され、連結された文字が続く。
]E0	UPC/EAN/JAN	EAN-13、UPC-A および UPC-E では 13 桁の EAN 国コードを使用した標準パケット。（アドオンデータは含まない）
]E1		2 桁アドオンデータのみ。
]E2		5 桁アドオンデータのみ。
]E3		EAN-13、UPC-A または UPC-E からの 13 桁と、アドオンコードからの 2 桁または 2 桁データの複合パケット。
]E4		EAN-8。
]F0	Codabar	チェックデジットの検証なし。
]F1		ABC (American Blood Commission) Codabar 連結 / メッセージ付加が実行される。
]F2		リーダーは、送信前にチェックデジットを検証している。
]F4		リーダーは、送信前にチェックデジットを検証し、削除している。
]G0	Code93	規定なし。常に 0 を送信する。
]H0	Code11	1 つのチェックデジットが検証され、送信される。
]H1		2 つのチェックデジットが検証され、送信される。
]H3		チェックデジットが検証され、送信されない。

AIM コード ID リスト (続き)

AIM ID	シンボル名	説明
J10	Interleaved 2 of 5	チェックデジットの検証なし。
J11		チェックデジットが検証され、送信される。
J13		チェックデジットが検証され、送信されない。
J10	DotCode	規定なし。常に 0 を送信する。
J10	PDF417 MicroPDF417	1994 年の PDF417 規格のプロトコルに従ってリーダーが設定。このオプションが送信された場合、受信者は ECI が呼び出されたかどうか、またデータバイト 92 が送信時に 2 倍になったかどうかを確実に判断することができません。
J11		拡張チャンネル解釈の ENV 12925 のプロトコルに従ってリーダーが設定。すべてのデータキャラクタ 92 は 2 倍になります。
J12		基本チャンネル解釈の ENV 12925 のプロトコルに従ってリーダーが設定。すべてのデータキャラクタ 92 は 2 倍になりません。リーダーがこのモードに設定されている場合、バッファリングされていないストラクチャード・アペンド・シンボルや、ECI シーケンスの伝達によるデコードを必要とするシンボルの送信や、TCIF Linked Code39 (TLC39) の送信はできません。
J13		Code 128 エミュレーション：1 番目の位置に FNC1 がある。
J14		Code 128 エミュレーション：最初の文字または数字の組み合わせの後に FNC1 がある。
J15		Code 128 エミュレーション：FNC1 はない。
J10	MSI	チェックデジットが検証され、送信される。
J11		チェックデジットが検証され、送信されない。
J00	Codablock	Codablock 256 : FNC1 がない。
J01		Codablock 256 : 1 番目のデータキャラクタの位置に FNC1 がある。後続は ASCII29 (GS) に変換。
J04		Codablock F : FNC1 がない。
J05		Codablock F : 1 番目のデータキャラクタの位置に FNC1 がある。後続は ASCII29 (GS) に変換。
J06		Codablock A
J10	Plessey	規定なし。常に 0 を送信する。
J10	QR コード	モデル 1 シンボル。
J11		モデル 2 シンボル。ECI プロトコルは実装されていない。
J12		モデル 2 シンボル。ECI プロトコルは実装される。
J13		モデル 2 シンボル。ECI プロトコルは実装されていない。1 番目の位置に FNC1 がある。
J14		モデル 2 シンボル。ECI プロトコルは実装される。1 番目の位置に FNC1 がある。
J15		モデル 2 シンボル。ECI プロトコルは実装されていない。2 番目の位置に FNC1 がある。
J16		モデル 2 シンボル。ECI プロトコルは実装される。2 番目の位置に FNC1 がある。
J10	IATA 2 of 5 Standard 2 of 5	チェックデジットの検証なし。
J11		チェックデジットが検証され、送信される。
J12		チェックデジットが検証され、送信されない。
J10	Discrete 2 of 5 Straight 2 of 5 Industrial 2 of 5	規定なし。常に 0 を送信する。

AIM コード ID リスト (続き)

AIM ID	シンボル名	説明
]U0	Maxicode	モード 4 またはモード 5 のシンボル。
]U1		モード 2 またはモード 3 のシンボル。
]U2		モード 4 またはモード 5 のシンボル。ECI プロトコルが実装されている。
]U3		モード 2 またはモード 3 のシンボル。第 2 メッセージで ECI プロトコルが実装されている。
]X0	その他のコード	UPC-E1、Trioptic Code 39、Bookland EAN、Code 32、China Post、Matrix 2 of 5、COOP 2 of 5、Han Xin、郵便コード
]Z	なし	意味は、「バーコードではない」。
]d0	DataMatrix	ECC 000 ~ 140。
]d1		ECC 200。
]d2		ECC 200、1 番目または 5 番目の位置に FNC1 がある。
]d3		ECC 200、2 番目または 6 番目の位置に FNC1 がある。
]d4		ECC 200、ECI プロトコルが実装されている。
]d5		ECC 200、1 番目または 5 番目の位置に FNC1 があり、ECI プロトコルが実装されている。
]d6		ECC 200、2 番目または 6 番目の位置に FNC1 があり、ECI プロトコルが実装されている。
]e0	GS1	GS1 DataBar、GS1 DataBar Limited、GS1 Databar Expanded、GS1 合成シンボル
]e1		符号化されたシンボルセパレータキャラクタに続くデータを含む。
]e2		エスケープメカニズムキャラクタに続くデータを含む。このデータパケットは、ECI プロトコルをサポートしていない。
]e3		エスケープメカニズムキャラクタに続くデータを含む。このデータパケットは、ECI プロトコルをサポートしている。
]g0	Grid Matrix	規定なし。常に 0 を送信する。
]o0	OCR	規定なし。常に 0 を送信する。
]z0	Aztec	オプションなし。
]z1		1 番目のメッセージキャラクタの前に FNC1 がある。
]z2		最初の文字または数字の組み合わせに続く FNC1 がある。
]z3		ECI プロトコルが実装されている。
]z4		1 番目のメッセージキャラクタの前に FNC1 がある。ECI プロトコルが実装されている。
]z5		最初の文字または数字の組み合わせに続く FNC1 がある。ECI プロトコルが実装されている。
]z6		連結のためのヘッダを含む。
]z7		連結のためのヘッダを含む。1 番目のメッセージキャラクタの前に FNC1 がある。
]z8		連結のためのヘッダを含む。最初の文字または数字の組み合わせに続く FNC1 がある。
]z9		連結のためのヘッダを含む。ECI プロトコルが実装されている。
]zA		連結のためのヘッダを含む。1 番目のメッセージキャラクタの前に FNC1 がある。ECI プロトコルが実装されている。
]zB		連結のためのヘッダを含む。最初の文字または数字の組み合わせに続く FNC1 がある。ECI プロトコルが実装されている。
]zC		Aztec Rune

付録B シンボルコード ID リスト

■ 1次元コード

シンボル名	ID 文字	Dec	Hex	rule.txt
Codabar	a	97	61	2
Code 11	h	104	68	12
Code 128	j	106	6A	3
ISBT 128	_	95	5F	25
Code 32 (PARAF)	<	60	3C	32
Code 39	b	98	62	1
Tri-Optic Code 39	=	61	3D	21
Code 93/Code 93i	i	105	69	7
EAN-13	d	100	64	11
EAN-8	D	68	44	10
GS1 DataBar	y	121	79	48
GS1 DataBar Limited	{	123	7B	49
GS1 DataBar Expanded	}	125	7D	50
GS1-128	l	73	49	15
China Post (Hong Kong 2 of 5)	Q	81	51	114
Interleaved 2 of 5	e	101	65	15
Matrix 2 of 5	m	109	6D	57
NEC 2 of 5 (COOP 2 of 5)	Y	89	59	-
IATA 2 of 5	f	102	66	5
Industrial 2 of 5	f	102	66	5
MSI Plessey	g	103	67	14
Telepen	t	116	74	202
UPC-A	c	99	63	8
UPC-A UCC Coupon Extended Code	:	59	3B	-
UPC-E	E	69	45	9
UPC-E1	E	69	45	9

■ 2次元コード

シンボル名	ID 文字	Dec	Hex	rule.txt
Aztec	z	122	7A	45
Han Xin	H	72	48	183
Codablock A	V	86	56	-
Codablock F	q	113	71	-
Code 49	l	108	6C	13
Data Matrix	w	119	77	27
Composite CC-A/B	下部の1次元コードの種類として認識			
Composite CC-C	GS1-128として認識			
Composite TLC-39	T	84	54	90
MaxiCode	x	120	78	37
PDF417	r	114	72	17
MicroPDF417	R	82	52	26
QR Code	s	115	73	28
Micro QR Code	s	115	73	28
DotCode	.	46	2E	196
Grid Matrix	X	88	58	200

■ 郵便コード

シンボル名	ID 文字	Dec	Hex	rule.txt
Australian Post	A	65	41	35
British Post	C	67	43	39
China Post	Q	81	51	-
InfoMail	,	44	2C	-
USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail	M	77	4D	52
Japan Postal	J	74	4A	34
Netherlands KIX Code	K	75	4B	36
Korea Post	?	63	3F	115
US Planet	L	76	4C	31
Postal-4i/UPC FICS Postal	N	78	4E	53
US Postnet	P	80	50	30

■ OCR

シンボル名	ID 文字	Dec	Hex	rule.txt
OCR	O	79	4F	-





付録 C USS の動作が不安定なとき

USS の動作が不安定なときは次の動作をお試しく下さい。


① USS を終了させます。

39 ページの「第 10 章 Exit」を参考に、USS を完全に終了させます。



② USS のキャッシュを削除します。

[ 設定] → [ アプリと通知] → [XX 個のアプリをすべて表示] → [] → [システムアプリを表示] → [USS] → [ストレージとキャッシュ] → [ ストレージを消去]

③ デバイスを再起動します。

電源ボタンを長押し → [ 電源を切る]

④ USS を起動します。

自動起動しない場合は、[ 設定] → [ USS] で手動で実行してください。

unitech

because we care

ユニテック・ジャパン株式会社

〒104-0033 東京都中央区新川 1-5-19 茅場町長岡ビル 8F

<https://www.ute.com/jp>

